大学発新産業創出基金事業
早暁プログラム 2期ステージ1

公募説明会

早暁
SOGYO

2025年7月

スタートアップ・技術移転推進部
スタートアップ第1グループ

JST 科学技術振興機構

プログラム

19:00 プログラムオフィサーよりご挨拶

19:10 早暁プログラム説明

19:30 質疑応答

プログラムオフィサーよりご挨拶

プログラムおよび公募のご説明

Index

I.　早暁プログラムについて

II.　公募・選考について

III.　提出資料および応募方法について

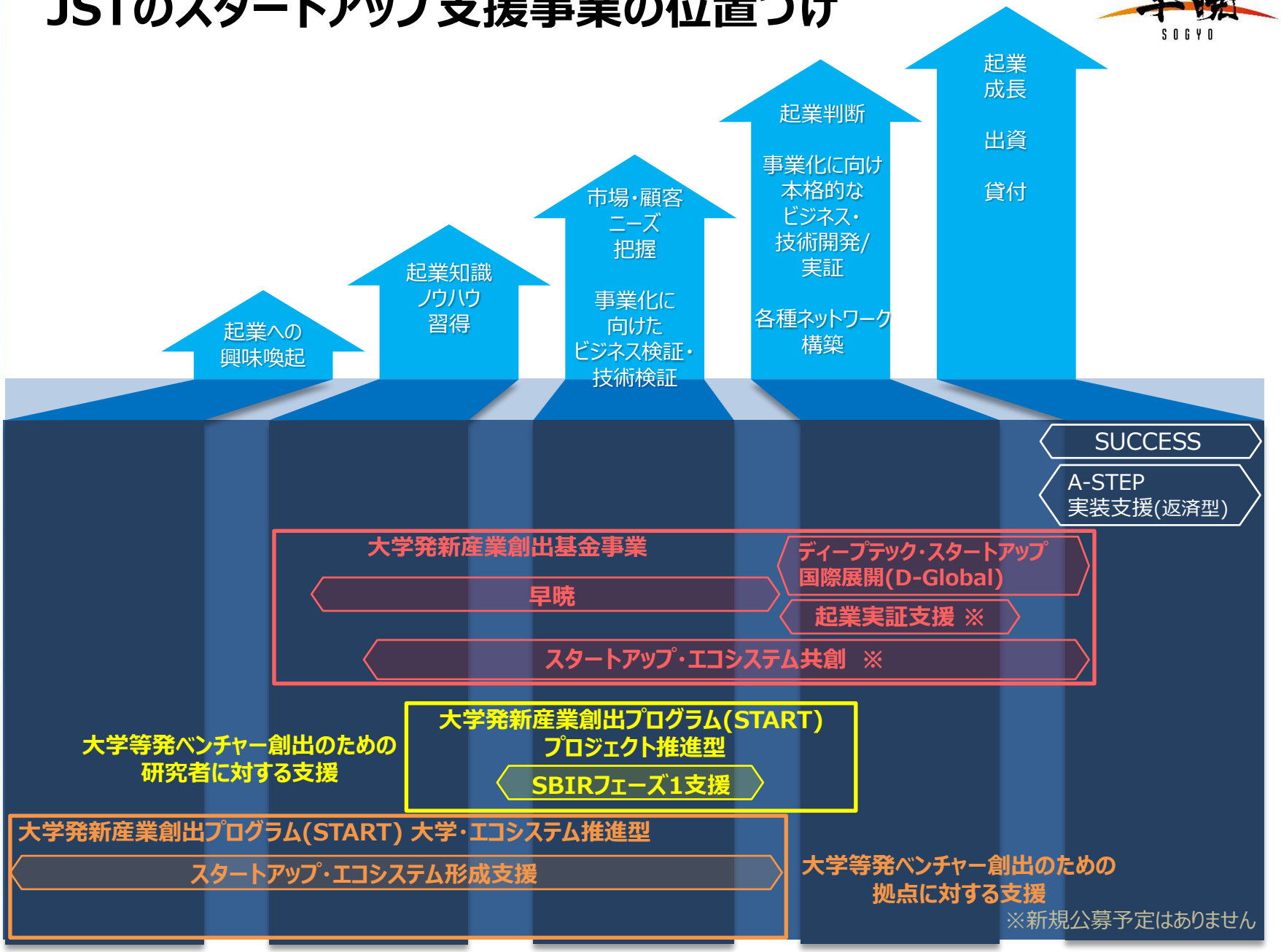
Index

I.　早暁プログラムについて

II.　公募・選考について

III.　提出資料および応募方法について

JSTのスタートアップ支援事業の位置づけ



国際展開する大学発スタートアップの創出と高校生等へのアントレプレナーシップ教育の拡大

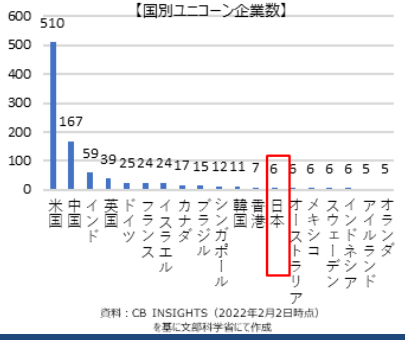
令和4年度第2次補正予算額　1,500億円

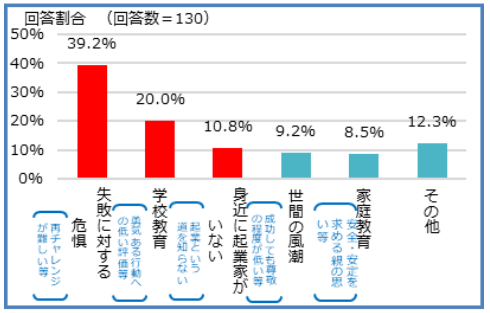
※施設整備502億円については、地域中核・特色ある研究大学の振興の一部と重複計上

文部科学省

背景・課題

- ✓ スタートアップ5年で10倍増を視野に、スタートアップを強力に育成するとともに、国際市場を取り込んで急成長するスタートアップを創出していくためには、**大学発スタートアップ創出力の抜本的強化**が必要
- ✓ そのためには、創業前から、**国際市場への展開可能性を検証するための支援や、地域の大学等から生まれる技術シーズへの支援**、起業を志す人材育成の機会を抜本的に拡充することが重要
- ✓ そこで、スタートアップ創出元年である令和4年度から、**国際展開も見据えたギャップファンド等の支援を大幅に拡充**するとともに**アントレプレナーシップ教育の機会を高校生等へと拡大**する





事業内容

大学発スタートアップの創出を強力に支援するため、国際市場への展開を目指すスタートアップの創出も含めて支援するギャップファンドプログラムを実施する基金を創設するとともに、地域の中核大学等への施設やスタートアップ創出環境の整備、アントレプレナーシップ教育の高校生等への拡大に向けて以下の取組を行う

大学発スタートアップ創出の抜本的強化

大学発新産業創出基金事業 988億円【基金】

事業実施期間：令和4年度～（原則5年間）

文科省 →（補助金）→ JST（基金）→（委託）→ 大学・研究者

○大学発スタートアップ創出を支援するギャップファンドプログラムの新設

- 拠点都市や地域の中核大学等の技術シーズに対して、海外の専門家等からのメンタリングなどとセットで国際市場への展開可能性を検証するギャップファンドプログラムを創設し、国際市場への展開を目指すスタートアップ等の創出に取り組む

○地域の中核大学等のスタートアップ創出体制の整備

- 大学発スタートアップ創出の抜本的強化に向けて、地域の中核大学等を中心に、地域の金融機関や他大学等と連携して、優れた技術シーズ等を活用した起業を進めるためのエコシステム形成に取り組む

起業家層の拡大に向けたアントレ教育の高校生等への拡大 -EDGE-PRIME Initiative-

10億円

- スタートアップ創出の抜本的拡大に向けて、その基盤となる人材の量や多様性を増やすため、拠点都市を中心にアントレプレナーシップ教育の機会を、優れた理数系の才能を有するこどもを始め、将来設計の入り口である高校生等へ拡大
- 件数・単価：1.2億円程度×8拠点
- 交付先：JSTを通じて大学等を支援

地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業

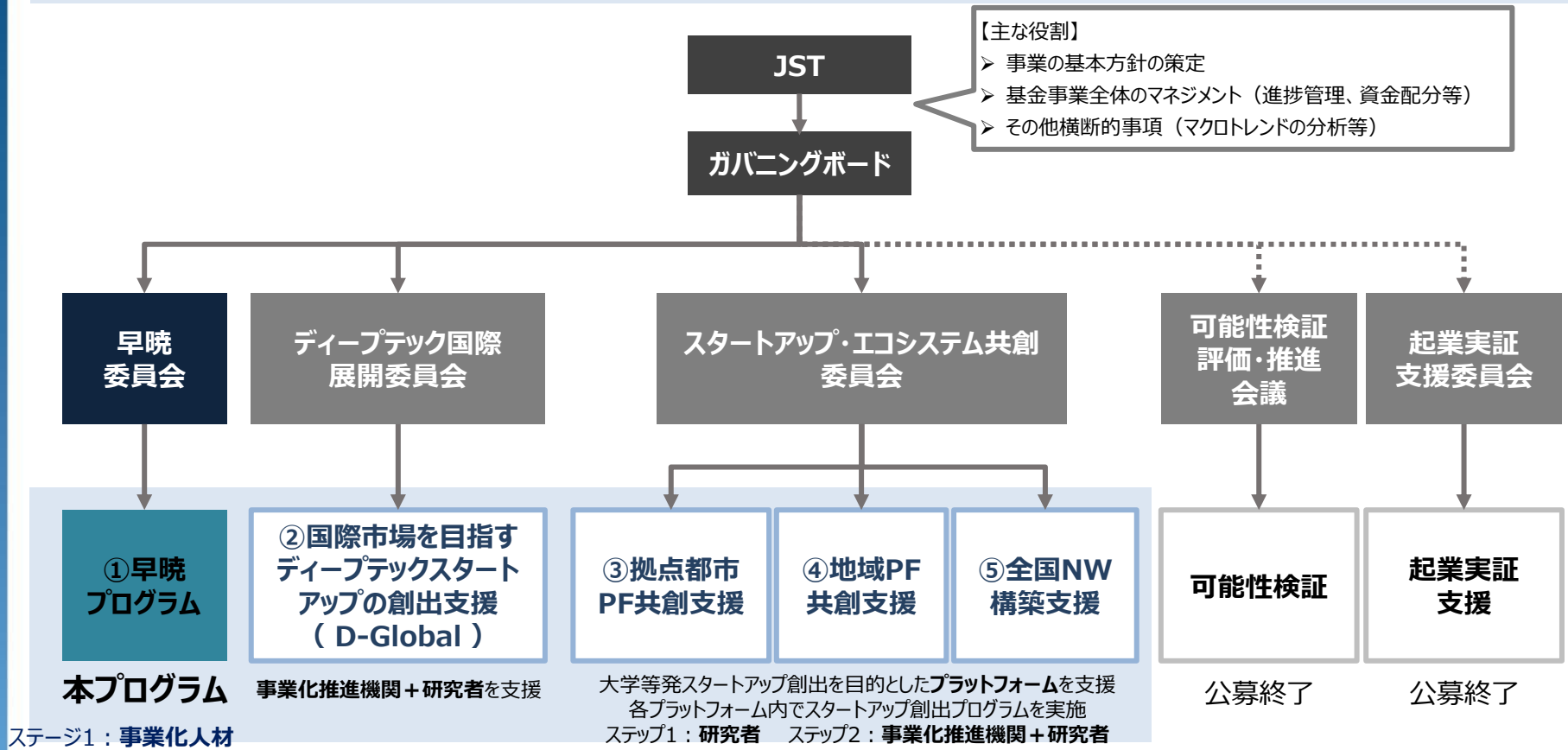
502億円（※）

- 研究力の向上戦略の下、大学間の連携を通じて地域の中核・特色ある研究大学として機能強化を図る大学による取組に対し、共同研究拠点化に向けた施設やオープンイノベーションの創出等に必要な施設の整備を支援
- 件数・単価：20億円程度×25件程度
- 交付先：大学

※地域中核・特色ある研究大学の振興の一部と重複計上

大学発新産業創出基金事業の全体像

【目指す姿】
1. 社会・経済にインパクトを生み、国際展開を含め事業成長するポテンシャルを有する、大学等のアカデミアから生まれるスタートアップの創出を、質・量ともに格段に充実させる
2. 大学等発SUの継続的な創出を支える、人材・知・資金が循環するエコシステムの仕組みを全国に形成すること



ステージ1：**事業化人材**
ステージ2：**事業化人材＋研究者**を支援

プログラム概要

大学等発スタートアップ創出に向けて、ビジネス視点を持つ事業化人材*が、起業経験や投資経験等を有するメンターによるメンタリングを受けながら、自らが描いた事業化構想を実現させるために大学等の技術シーズを探索し、研究者**とチームになってビジネスモデルのブラッシュアップと研究開発を推進し、次のフェーズ(大型ギャップファンド等)への移行を目指すプログラム

＊　事業化構想分野の専門知識とビジネスに関する知識がある人材

＊＊事業化人材が提示するビジネスモデルに合わせて研究開発を行う大学等の研究者

ステージ１

事業化人材

期　間：5ヶ月程度
支援額：上限60万円（旅費）
採択数：20名程度

ビジネスモデルの構築

大学等の技術シーズ探索

事業化人材　研究者

マッチング成立

審査

ステージ２

事業化人材　研究者

期　間：7ヶ月程度
支援額：上限500万円
採択数：10チーム程度

ビジネスモデルのブラッシュアップ

ビジネスモデルをもとにした研究開発

次フェーズのギャップファンドへ申請可能なチーム

大型ギャップファンド等

スタートアップ設立

サポートメニュー

シーズ探索サポート（ステージ1のみ）

起業・投資経験のあるメンターからの実践的指導

ドアノック経費、研究開発費の支援

起業に必要な知識の研修

合宿型会議等によるプログラム内でのネットワーク形成

JSTのギャップファンドプログラム

D-Global
期間：3年以内
予算：3億円※以内
※正当な理由があれば5億円

スタートアップ・エコシステム共創プログラムのプラットフォーム内のプログラム
期間：3年以内
予算：6,000万円以内
※特別枠1億円

プログラムオフィサー

古川 尚史

東京大学協創プラットフォーム開発株式会社（東大IPC）
マネージングパートナー

1995年日本銀行入行。その後、2000年7月から約2年間、 ボストン・コンサルティング・グループ で勤務したのち、起業。 ベンチャー企業の経営に携わる。2007年から2015年には経営共創基盤でディレクターを務め、 ハンズオン型の経営改革に従事。2021年より東大IPCに参加。 東大IPCの経営・戦略企画、投資および事業開発、投資先へのハンズオン経営支援を管掌。 2015年以降、NECライティング（株）取締役、サンバイオ（株）執行役員、（株）イノフィス代表取締役社長・会長を歴任

プログラムの特色と主なメリット

早暁プログラムは、各機関における個別研修や、外部機関の既存の研修コース等では得られない**特色とメリットがあります。**

① メンタリング	✓ **起業経験や投資経験等**を有する**メンターによる実践的な指導・助言**を受けることができます。
② 知識習得	✓ 研修等、プログラム全体をとおして、将来のスタートアップ起業を見据えた**ビジネスモデルの構築に関する知識**を得ることができます。
③ ネットワーク構築	✓ 将来スタートアップの経営者を目指す、多様な分野やセクターに属する意欲の高い事業化人材が、相互を刺激し研鑽しながら本格的な討議や合宿型の研修などに参加することで、プログラム修了後も引き続き**切磋琢磨できるネットワーク**が構築できます。
④ ビジネスモデル構築（ステージ1）	✓ スタートアップの第一線で活躍するメンターやスタートアップへの投資経験を豊富に有するメンターからのメンタリングを受けつつ、様々な情報収集やインタビューなどを通じて、**ビジネスモデルの構築、高度化**に取り組むことができます。
⑤ 活動費（ステージ1）	✓ **ステージ１の活動にかかる旅費**はJST（又はJSTが委託した外部機関）より支給します。
⑥ 研究開発とビジネスモデルブラッシュアップ（ステージ2）	✓ ステージ２では、**事業化に向けた研究開発**や**ビジネスモデルのブラッシュアップ**をメンターによるサポートのもと、推進することができます。
⑦ 研究開発費（ステージ2）	✓ ステージ２に採択となった場合、１課題当たり**500万円程度（直接経費）**を上限としてJSTが研究開発費を支援します。
⑧ 兼業・副業可能	✓ **現職がある方**も、終業後や休日を利用して参加いただくことが可能です。

メンター

事業化人材は、ドアノック活動やビジネスモデル構築のため、月2回程度を目安に**起業経験や投資経験等**を有する**メンターによる指導・助言**を受けます。

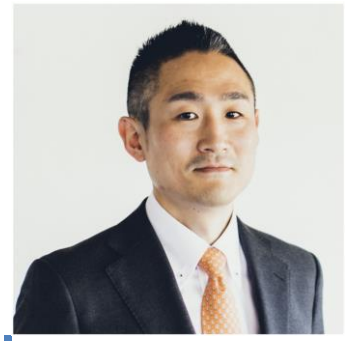
秋枝 静香
株式会社サイフューズ
代表取締役

岡田 光信
株式会社アストロスケール
ホールディングス
創業者兼CEO

奥原 啓輔
プラチナバイオ株式会社
代表取締役CEO

川上 登福
株式会社
先端技術共創機構(ATAC)
代表取締役

菅原　充
株式会社QDレーザ
Founder&最高技術顧問



関水 康伸
株式会社Provigate
代表取締役CEO

長尾　昂
京都フュージョニアリング
株式会社
共同創業者 兼 取締役会長

西村　邦裕
株式会社テンクー
代表取締役社長

関　弘圭
株式会社Liberaware
代表取締役

吉井　幸恵
リンクメッド株式会社
代表取締役社長

推進アドバイザー

推進アドバイザーは、スポット的なメンタリングや、プログラム内イベントでの講演等を通して、指導・助言を行います。

古川　保典
株式会社オキサイド
代表取締役会長

吉野　巌
マイクロ波化学株式会社
代表取締役社長CEO

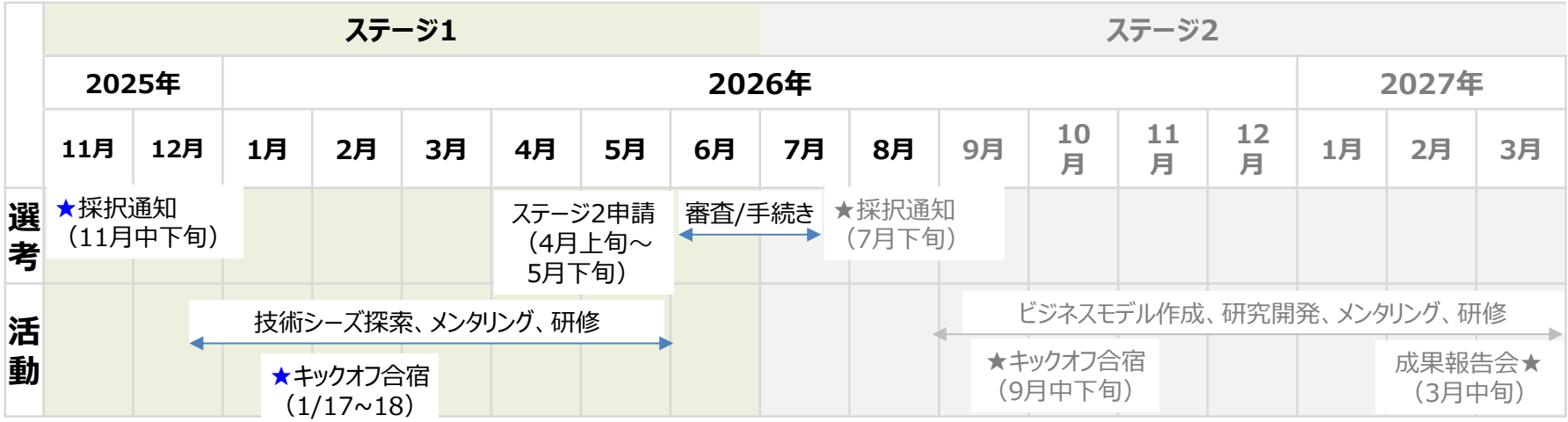
実施内容（ステージ1）

① **技術シーズ探索活動**	✓ 事業化構想を基に技術シーズの探索のための**研究者訪問**等を行います。その際、JSTが提供する技術シーズリストを活用することも可能です。 ✓ 事業化人材と研究者のマッチング成立後、両者はビジネスモデルの検討、及び必要な研究開発計画の立案等を進め、**ステージ2のための申請書作成**を行います。
② **メンタリング**	✓ ドアノック活動やビジネスモデル作成について、**起業経験者等のメンターからの指導・助言**を受けます。
③ **ネットワーク形成**	✓ 人脈形成、ビジネスモデルブラッシュアップを目的とした**合宿型会議（キックオフ）に参加**します。 ✓ Slack等のオンラインコミュニケーションツールでの意見交換を通して、メンター・事業化人材の間の**ネットワーク形成**を図ります。
④ **起業研修**	✓ JST指定の事業化支援ノウハウを持つ外部機関が提供する**研修**や**知財戦略支援**を受けることができます。

実施内容（ステージ2）

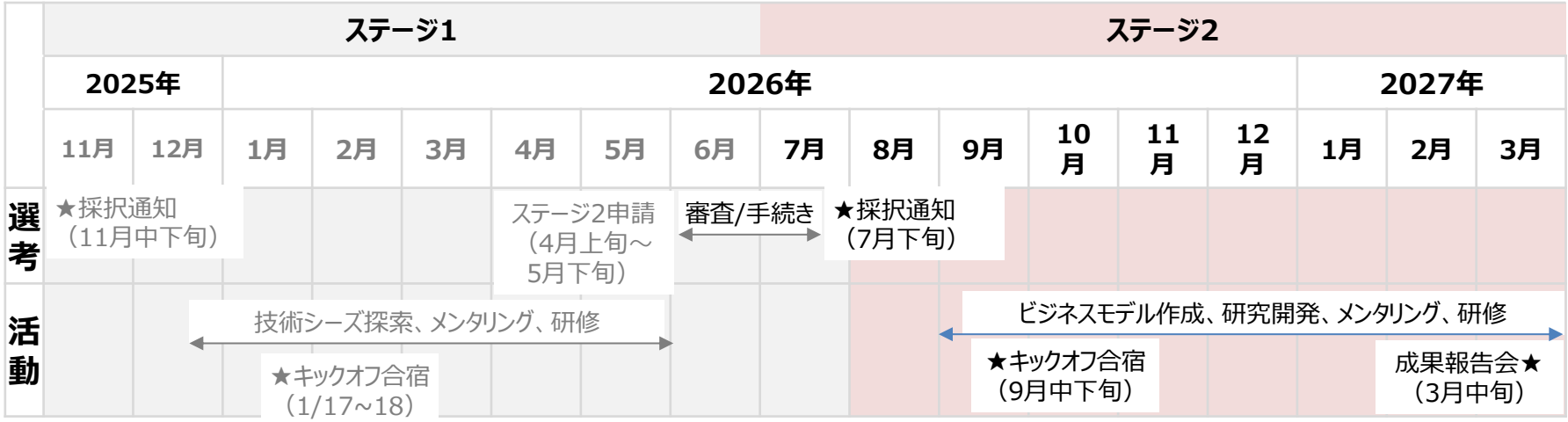
① **ビジネスモデルのブラッシュアップ**	✓ 事業化人材は、研究者の技術シーズを活用したビジネスモデルのブラッシュアップ、および仮説検証のための**顧客ヒアリング**や**市場調査**等を行います。
② **研究開発**	✓ 研究者は、ビジネスモデル仮説を検証するために必要となる**研究開発**を行います。
③ **メンタリング**	✓ ビジネスモデルブラッシュアップ活動のため、月2回程度を目安に**メンターによる指導・助言**を受けます。必要に応じて研究者の同席も可能です。 ✓ 人の紹介等、人脈形成のためのサポート等を受けることができます。
④ **ネットワーク形成**	✓ 事業化人材はビジネスモデルブラッシュアップやネットワーキングを目的とした**合宿型会議に参加**します（チームを組む研究者も参加可能）。 ✓ Slack等のオンラインコミュニケーションツールでの意見交換を通して、メンター・事業化人材・研究者の間の**ネットワーク形成**を図ります。
⑤ **成果報告会**	✓ 活動終了時には、クローズドの**成果報告会**を行います。

プログラムの実施スケジュール（ステージ1）



① 技術シーズ探索	✓ 研究者訪問　等 ✓ ステージ２への申請書作成	①ビジネスモデルの高度化	✓ 顧客ヒアリング ✓ 市場調査　等
② メンタリング	✓ メンターによる指導・助言	②研究開発	✓ 研究者による検証
③ ネットワーク形成	✓ 合宿型会議 ✓ Slack等のオンラインツール	③メンタリング	✓ メンターによる指導・助言 ※研究者も同席可能
④ 起業研修	✓ 研修 ✓ 知財戦略支援	④ネットワーク形成	✓ 合宿型会議 ※研究者も参加可能
		⑤成果報告会	

プログラムの実施スケジュール（ステージ2）



① 技術シーズ探索	✓ 研究者訪問　等 ✓ ステージ２への申請書作成	①ビジネスモデルの高度化	✓ 顧客ヒアリング ✓ 市場調査　等
② メンタリング	✓ メンターによる指導・助言	②研究開発	✓ 研究者による検証
③ ネットワーク形成	✓ 合宿型会議 ✓ Slack等のオンラインツール	③メンタリング	✓ メンターによる指導・助言 ※研究者も同席可能
④ 起業研修	✓ 研修 ✓ 知財戦略支援	④ネットワーク形成	✓ 合宿型会議 ※研究者も参加可能
		⑤成果報告会	

Index

I.　早暁プログラムについて

II.　公募・選考について

III.　提出資料および応募方法について

公募概要（ステージ1･ステージ2）

本プログラムは**ステージ1とステージ2で構成**されており、**2段階の選考**を実施します。

ステージ1では、事業化人材を募集します（本公募説明会の対象とする公募）。

ステージ2は、研究代表者とステージ1に採択されている事業化人材から構成される研究開発チームを募集します。

	ステージ1	ステージ2
実施期間	**5ヶ月程度** **(令和7年12月下旬~令和8年5月下旬)**	7ヶ月程度 （令和8年9月上旬~令和9年3月末）
支援額	**上限60万円（主に旅費）** ※活動実績に基づきお支払い ※旅費はJSTの規定に基づき算出	上限500万円（直接経費） ※研究代表者の所属機関とJST間で契約を締結
採択件数	**20名程度**	10チーム程度
公募期間	令和7年7月17日（木） **~8月28日（木）正午**	令和8年4月上旬 ~5月29日（金）正午
選考期間	令和7年9月上旬 ~11月中旬(**面接は10/18-19**)	令和8年6月上中旬~7月中旬
採択者決定通知	令和7年11月中旬~下旬	令和8年7月下旬
活動開始	**令和7年12月下旬~**	令和８年9月上旬~

応募者の要件（ステージ1）

以下の①～⑦の**全ての要件**を満たしていること。

① 各種知識 実務経験	✓ 事業化を**目指す技術分野の知識**を有すること。 ✓ 商社・事業会社等での**ビジネス経験**を有すること、もしくは MBA、MOT 取得やアクセラレーションプログラム・アントレプレナーシッププログラム受講等を通じて**事業化の知識**を身につけていること。
② 意欲	✓ 日本国内の大学等発技術シーズの**事業化に取り組む意欲**があること。
③ 活動意志	✓ メンターによるメンタリングを受けるとともに、技術シーズの探索を行い、**ステージ2に向けた申請書を作成する意志**があること。
④ 承諾	✓ 応募者が企業・研究機関等に所属する場合は、**本活動に従事することへの承諾**を事前に得ること。
⑤ 年齢	✓ 年齢制限はありません。 （応募時点で満４０歳未満の場合、選考において一定の優遇措置を行います）
⑥ 言語	✓ **提案書類は日本語で作成**いただきます。 面接選考や採択後のメンタリング、会議等は日本語で実施しますので、一定程度の日本語コミュニケーション能力が必要です。
⑦ その他	✓ 応募時に、研究活動における不正行為もしくは研究費の不正受給や不正使用に関わる参加資格の制限などに抵触していないこと。 ✓ 反社会的勢力、あるいはそれに関わる者との関与がないこと。 ✓ 期間中は、**日本国内に居住**し、**国内で活動可能**であること。

選考の観点（ステージ1）

以下の観点を中心に審査を行います

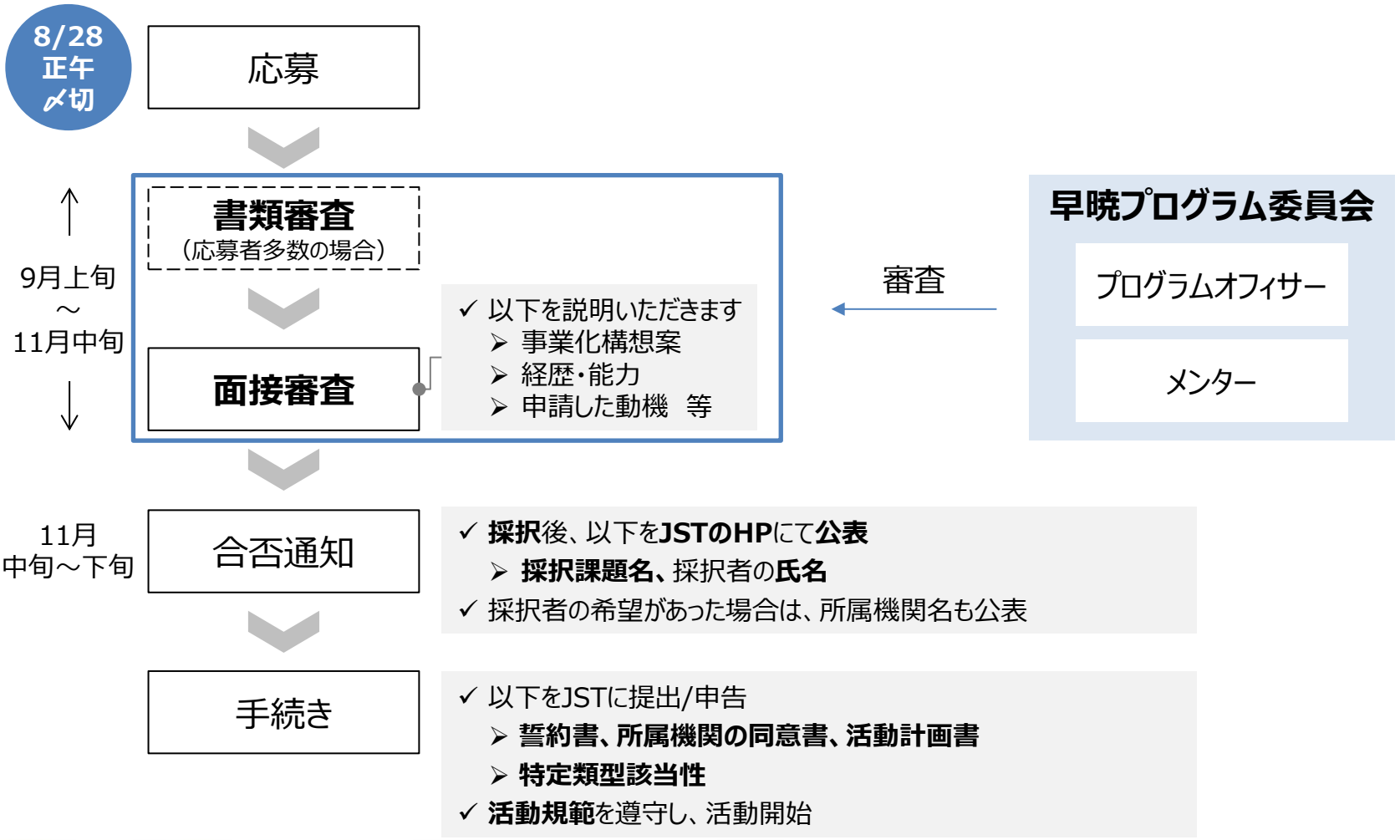
① 事業化構想	✓ 事業化構想が適切・明確に設定できているか。 ✓ 事業化構想の実現性や成長性が期待できるか。
② 技術シーズの活用	✓ 事業化を目指す技術分野の知識を有しているか。 ✓ 大学等発技術シーズを活用して、課題解決に向けた活動ができるか。
③ 能力	✓ 事業化構想を実現するための能力や経験を有しているか。 ✓ 課題の解決策および、解決にあたって注目するシーズを選定した理由について、論理的に説明されているか。 ✓ スタートアップ創出への熱意を有するか。 ✓ 課題発見力、課題解決力、洞察力、知識応用力、独創性及び考え抜く力を有しているか。

※上記に加え、**面接**では以下の「**事業化人材に必要な資質**」の各項目**も踏まえて審査**します。

事業化人材に必要な資質	✓ 自らの事業化構想を持ち、それを実現するために大学等発研究シーズを活用し、将来的にディープテック・スタートアップの起業を目指す意志があること。 ✓ プログラムオフィサー（PO）やメンター、研究者と積極的にコミュニケーションをとり、本プログラムでの活動を行うこと。 ✓ 自身の事業化構想を軸にしつつも、メンター等、他者の視点も取り入れてブラッシュアップや必要に応じ構想の見直しを行うこと。 ✓ 受身でプログラムに参加するのではなく、主体的に活動すること。

選考方法（ステージ1）

早暁プログラム委員会が、**書類審査**と**面接審査**を行います。



Index

I.　早暁プログラムについて

II.　公募・選考について

III.　提出資料および応募方法について

提出資料（ステージ1）

応募者は**以下の資料**を作成し、締め切りまでに提出してください。

書類

基本情報

- ✓ 基本情報
- ✓ 略歴・経験
- ✓ 熱意やコミットメント

様式1

事業化構想

応募者が想定している事業化構想

様式2

その他

1. 個人情報に関する同意書
2. 各種確認書

様式3　様式4

【組織に所属していない方】
3. 推薦状
※推薦者の氏名、所属、役職、連絡先

様式なし

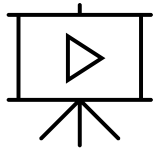
動画

プレゼン動画

以下を含めること（3分以内）
- ✓ 自己PR
- ✓ 想定している事業化構想

動画の作成要件は記載要領ご参照

様式なし



- ✓ 白黒・カラーは問いませんが、審査が適切に実施できるように配慮してください。
- ✓ **日本語**でご用意ください。

応募方法 （ステージ1）

応募書類は、**1つのPDF**形式の電子ファイルにまとめ、**申請フォームからご提出**をお願いいたします。
プレゼン動画は、**申請フォーム中に記載のリンク**からご提出をお願いいたします。

書類

基本情報

- ✓ 基本情報
- ✓ 略歴・経験
- ✓ 熱意やコミットメント

様式1

事業化構想

応募者が想定している事業化構想

様式2

その他

1. 個人情報に関する同意書
2. 各種確認書

様式3 様式4

【組織に所属していない方】
3. 推薦状
※推薦者の氏名、所属、役職、連絡先

様式なし

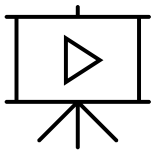
動画

プレゼン動画

以下を含めること（3分以内）
- ✓ 自己PR
- ✓ 想定している事業化構想

動画の作成要件は記載要領ご参照

様式なし



- ✓ ファイル名は**【氏名.拡張子】**としてください（例：科学太郎.mp4）。
- ✓ 拡張子は「.mov」「.mp4」のいずれか。
- ✓ 50MB 以下（推奨動画仕様：解像度/フレームレート＝（1280×720）/30fps）。

- ✓ ファイル名に必ず**【ご提案者氏名】**を入れてください。
- ✓ 紙書類、郵送による提出は不可。
- ✓ 提出後1時間が経っても受付メールが届かない場合、JST事務局にお問い合わせください。

応募の注意事項（ステージ1）

① 修正・差替え	✓ 公募締切後に、書類の不備等による書類の修正、差替えは**一切受け付けません。**
② 追加対応	✓ 選考過程において、JST事務局から応募内容等について問い合わせを行うことや、追加資料の提出を求める場合があります。
③ 規定違反	✓ 応募資格を満たさない応募者からの応募、提出書類に不備がある場合、提出書類に法令違反・公序良俗違反の内容を含む場合、この公募要領に規定する形式に反する場合は、**応募自体を無効**とさせていただく場合があります。
④ 書類の返却	✓ 提出された**応募書類は返却いたしません。**

JST事務局およびお問い合わせ先

【JST事務局】
〒102 -0076
東京都千代田区五番町7 K's五番町
国立研究開発法人科学技術振興機構
スタートアップ・技術移転推進部スタートアップ第1グループ

【お問い合わせ先】
Email：sogyo@jst.go.jp

※個別の提案に係る選定経過等に関しては、一切回答できません。

プログラム紹介動画

「早暁プログラム　創業に挑戦する事業化人材たち」を現在、Youtubeで公開中です。

https://www.youtube.com/watch?v=xdokycWWNcw